

<p>琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会(2003.8.30開催)結果報告 テーマ：これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 No.3</p>	<p>2003.9.4 庶務発信</p>
<p>開催日時：2003年8月30日(土) 13:30～17:15 場 所：大阪会館 Aホール 参加者数：委員15名、一般傍聴者86名</p>	
<p>1 本日の試行の会について 寺川委員から淀川水系流域委員会の役割と本日の会の趣旨について説明が行われた。</p> <p>2 一般からの意見発表と質疑応答 5名の発表者から各10分意見発表が行われた後、委員との質疑応答が各5分行われた。</p> <p>安東尚美氏(流域調整室) 発表内容：天ヶ瀬ダムの再開発は琵琶湖の浸水被害の軽減を目的とするのだから、放流量を1500m³/sに増やすことにこだわらず他の対策もよく検討すべき。既存施設を活用した場合どこまでできるのか、流下能力等の数値も出してほしい、など</p> <p>中森藤雄氏(滋賀県大津市在住) 発表内容：現在整備計画には大津放水路は一期区間のみ継続と明記されているが、二期区間についても都市機能及び歴史資産が集積しており、浸水による被害が大きい区域である。大津市民が安心して生活できるよう、大津放水路全区間の早期完成を要望する、など</p> <p>酒井研一氏(高時川の明日を考える住民大会実行委員会委員長、湖北土地改良区理事長) 発表内容：丹生ダム建設事業の見直し案は、長年丹生ダム建設事業に協力してきた地域住民に配慮を欠いた決定だ。当該地域が洪水災害に悩まされている実態を知り、住民が安心して生活を営めるよう早急に結論を出し、丹生ダム建設を進めてほしい、など</p> <p>平山紘一郎氏(大阪・水かいどう808事務局長) 発表内容：現在都市河川はかなり汚染されているが、アピール効果も含め、まず大阪のシンボル道頓堀をきれいにしたいと考え様々な取り組みを行っている。昔はきれいであった川を回復させるためには、市民の意識の向上を図る市民活動と行政の行動がカギとなる、など</p> <p>岡内勝次郎氏(大阪淀川リトルリーグ事務局長) 発表内容：現在消えようとしている淀川の高水敷の多目的グラウンドを使用している当リーグからは才能ある選手も多く排出しており、また川辺の清掃等を実行し大切にに使わせていただいている。堤内地の学校も使わせてもらえない現在、高水敷を引き続き使用させてもらいたい。下流の者には上流で自然を破壊するダムはむしろ必要なく感じる、など</p> <p>3 自由討論 「発表の内容」や「上下流の意識の違い」等について、委員、発表者、一般傍聴者の中で意見交換が行われた。中でも、特に若い世代の傍聴者に積極的に意見が求められた。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は洪水の怖さを知らずに育ったので、若者に危険を学ばせられる社会作りをしてほしい。 ・ダムに関して様々な考え方が当然であり、まとめることは難事業だ。このような調整の場を設けたこと自体が大きなことと思う。 ・高時川流域は洪水の一方で濁水にも苦しめられており、解決にはダムを作り一年中定量の水を流してもらい以外の方法は考えられない。 ・今回若者の参加が少なかったが、関西には土木工学科の学生が多いので、もっと大学に声をかけるべき/自然教室、水フォーラムに参加したグループ等に呼びかけてはどうか。 ・国土交通省にできることには限りがある。ダム建設の問題にしても、全て行政に任すのではなく、お互いにできることをすべきではないか。 ・上流は下流に、下流は上流にお互いに無関心であると感じた。若い世代も無関心だから参加がない。 ・本日の会を通じて、上下流の対立が見られた。コーディネーターの役割を委員が果たせたか疑問。若者の会としながら年配者が開催していたことも含め、河川管理者は今回の会を反面教師としてより良い対話集会をしてほしい。 など <p style="text-align: right;">以上</p>	

このお知らせは委員の皆様にも主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。